

私立 金沢工業高等専門学校

取組名称 共同と共創によるキャリアデザイン教育

取組担当者 機械工学科 教授・進路指導主事 秋山 晃

1. 本校の概要

金沢工業高等専門学校（以下、本校）は、1962(昭和37)年4月、5年一貫の実践的教育を行う高等教育機関として設立された。以来、本校は『高邁な人間形成』『深遠な技術革新』『雄大な産学協同』を建学綱領とし、金沢工業大学と共有する教育研究環境の下、専門科目と一般科目を効果的に組み合わせたくさび形カリキュラムにより、実践的・創造的技術者育成に務めている。

本校の最大の特色は、ものづくり教育と英語教育にある。ものづくり教育では、授業や課外における創作活動を推進し、技術者に必要な知識・技能及び態度等を包含する人間力の醸成を図っている。一方、英語教育では、米国人教員による少人数授業、米国英語研修、シンガポールポリテクニクとの学生交流等を特長とし、グローバル社会で活躍できる技術者の育成を図っている。さらに、単位認定を伴う3年次1年間のニュージーランド留学では、両教育が融合され優れた教育成果を上げている。

現在、本校は電気電子工学科、機械工学科、グローバル情報工学科の3学科で構成され、計515名の学生が学んでいる。新たに、産学連携によるものづくり教育並びに外国人教員13名（英会話7名、専門6名）を擁する工学・英語協同学習を推進している。

2. 本取組の概要

本校は、毎年約7割の学生が就職を希望し産業界からの期待に応えてきた。しかし、昨年来の世界同時不況により経済・産業の先行き不透明感が漂うなか、学生が職業観を醸成し就職意欲を持ち続けるためには、これまで以上に強い動機付けが必要となっている。

本取組は、学生と教職員及び企業との“共同と共創”により、入学から卒業まで5年一貫のキャリアデザイン教育を開発・実施し、就職意欲の向上を図るとともに、学生が主体的にエンプロイアビリティを高めていくことを支援するものである。

また、授業、課外活動、インターンシップ等、学生

生活を通じて得た知識や経験をキャリアデザインノート及び教職員との面談により整理・省察し、キャリア形成に役立てていくことで、すべての学生が自ら進路を選択し積極的に行動するようになることを目標としている。

具体的には、次の学生支援策を実施する。

- ①教職員が積極的に企業へ出向き、インターンシップ先、工場見学先及び就職先を確保するとともに、新たに、卒業生が参加する合宿進路研修や合同企業説明会を開催する。
- ②全学生が、目標及び活動成果を記録し、教職員との面談や省察に利用できるキャリアデザインノートを開発し運用する。
- ③有識者によるキャリア研修会を開催し、教職員のキャリアカウンセリング能力向上及びキャリアデザイン教育の浸透を図る。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨と目的

本取組は、本校の建学理念である『人間形成』の具現化を目的とし、キャリアデザイン教育の実践により、学生が、授業や課外活動で得た知識あるいは経験を統合し自身のキャリア形成につなげようとするものである。同教育は、学生を社会に結びつける重要な役割を担っており、自己理解を深め、就職を人生というより広い文脈のもとで考え、自己実現へ向けて行動する力を育成する。つまり、本取組は、職業観や職業に関する知識を身につけさせるだけではなく、学生の主体性を育み、学生自らが目標を設定し行動するようになることを目的としている。

産業構造や雇用環境の変化が激しい我が国では、自立的にキャリアを描ける者でなければ成功は難しい。技術者として自立するのに必要な夢と自信を与えることが卒業後の成功につながり、フリーターやニートへ向かわせない教育となる。そして、その夢や自信は、専門能力（知識・技能）及びコミュニケーション能力や自ら判断し行動する力等、社会で自分を活かして生きていくための人間力を身につけることにより育まれる。

そこで本校は、キャリアデザインを全学年に導入し、学生が自分自身や社会を見つめ、将来への道程を考える時間を設けている。また、ポートフォリオに、獲得した人間力等を文章やデータで蓄積・省察していくことにより、目的や目標が明確になり、意欲や行動力が高まることが期待できる。

(2) 達成目標

本取組では、早期から段階的に職業観の向上を図り、学生に就職準備を行わせるため、より多くの企業情報や体験機会を提供し、そこで得た知識や経験をキャリアデザインノートにより論理的に整理することで、すべての学生が、自ら就職先を選択し積極的に行動できるようになることを達成目標としている。

なお、取組の成果は、キャリア教育・就職支援に対する学生満足度、就職率、卒業生の離職率に表われると考えている。そこで、具体的な数値目標を次のとおりとする。

- ・学生満足度：総合アンケート調査（満足度調査）にて“満足”あるいは“まあ満足”と答えた学生が80%以上
- ・就職率：100%
- ・離職率：0%（就職後1年以内）

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

職業観及びエンプロイアビリティの育成を図るキャリアデザイン教育を実践する。同教育に関する具体的な取組と期待される成果は次のとおりである。

(i) キャリアデザインノート

キャリアデザインの手法を取り入れ、学生が論理的にまとめやすく、かつ教職員との面談や省察に利用しやすいノートを開発し運用する。

キャリアデザインノートは、1年次より段階的に職

業観の醸成を図れるものを目指す。

(ii) 企業訪問

本校では、毎年夏期休暇を利用し4年生全員がインターンシップに参加している。インターンシップは、単なる就業体験ではなく、これまで学習した知識や技術を社会の場において生かせるか否かを学生自身が自己点検し、残りの学生生活で何を目標とし何を学習していくかを明確化する良い機会になっている。しかし、企業側のメリットが薄いこと及びこの不況により、受入企業の確保が難しくなっている。

そこで、進路指導委員会が中心となり企業を訪問し、次年度のインターンシップ受入れ先及び工場見学の確保並びに就職先の開拓を行う。

(iii) 工場見学

学生の企業現場に対する理解や職業観の醸成を目的に、10・11月に1～4年生の工場見学を実施する。

企業現場を見学し理解を深め、「やりたい仕事」「なりたい自分」を考える機会を与え、学生が自ら進路選択できる力を育成する。

(iv) 卒業生講演及び合同企業説明会

11月に開催される4年生の宿泊研修にて、卒業生等を講師とする講演、面談等を実施する。また、合同企業説明会を開催し、業種・職種、企業の魅力を具体的に知る機会を提供する。これらにより、学生が、自身の進路について深く考え、就職活動への準備を行うようになる。

(v) 教職員対象キャリア研修会

キャリアデザイン教育は、すべてを学生任せにすべきではなく、また、子ども扱いや押しつけといった、行き過ぎた指導にならないよう注意し、学生の卒業後の成功までを考え、本人が気づく機会や適宜助言・指導が行える機会を効果的に設けていくことが大切になる。そこで、FDの一環として有識者によるキャリア研修会を開催し、本校教職員のキャリアカウンセリング能力向上及びキャリア教育の浸透を図る。これによ

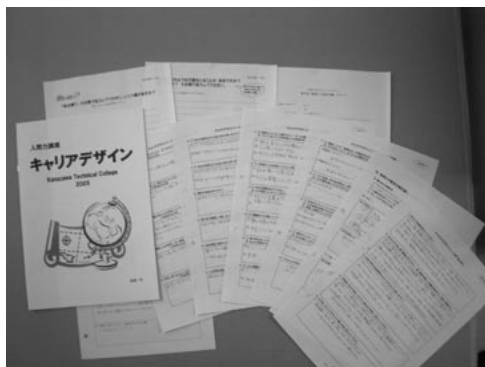


写真1 現在新入生に配付しているノート



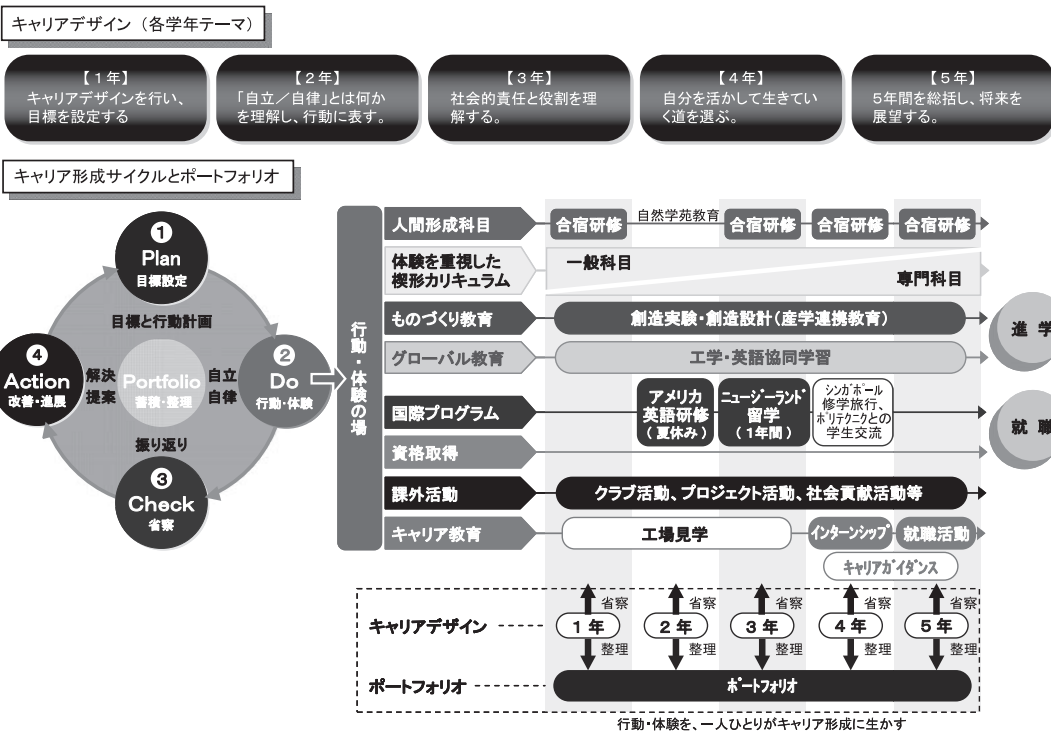
写真2 インターンシップ報告会



写真3 工場見学（2年生）



写真4 FD研修会（グループ活動）



短期大学・高等専門学校

り、教職員の多くが、キャリアデザインの助言や、面接指導等を行えるようになることが期待される。

(vi) 情報公開

ホームページにて本取組を紹介したり、パンフレットを作成し工業高校、高等専門学校、大学へ郵送すること等により、本取組の内容、過程、成果等を積極的に発信していく。また、3月の「教育成果発表会（公開発表会）」にてその成果を発表する。さらに、キャリアデザインノートホームページに掲載しダウンロードできるようにする。このように本校のキャリアデザイン教育を積極的に公開していくことで、関係者以外からも意見や改善提案が届くようになり、それを参考に同教育の醸成を図ることができると考える。

(2) 取組の実施体制

(i) キャリアデザイン教育

キャリアデザインは、進路指導主事を責任者とするキャリアデザイン教育部会が中心となり、授業計画及び準備（キャリアデザインノートの開発や資料の作成、講演会の開催等）を行う。ただし、キャリアデザインは主に「特別活動」の授業で行われることから、クラス担任・副担任全員が実施担当者となる。キャリアデザイン教育部会は、学年主任、各学科の教員、一般教科教員、事務職員により構成されている。

(ii) 企業訪問

企業訪問は、インターンシップ先や就職先の確保を目的としていることから、進路指導委員会と4・5年生の担任・副担任が中心となり実施する。



写真5 教育成果発表会

(iii) 情報公開

本取組の案内パンフレットやホームページの作成等、情報公開に関することは、事務局が中心となり進めていく。ただし、本校が毎年3月に開催している「教育成果発表会」及び「キャリア研修会」については、FDを主管する教育評価委員会が担当する。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組の評価は、キャリアデザイン教育部会による実施結果報告、法人本部CS（顧客満足度向上）室による総合アンケート調査（学生満足度）結果報告、就職率、各学科が調査する離職率などのデータに基づき、本校教育評価委員会が中心となり分析・評価を行う。



写真6 授業及び総合アンケート調査結果報告会

6. 本取組の実施計画等

〈2009(平成21)・2010(平成22)年度〉

- ・全学生を対象とするキャリアデザイン教育を実施
- ・キャリアデザインノート（1～5年生まで各1種）を2009(平成21)年度に作成し、翌2010(平成22)年度に試行運用
- ・インターンシップ受入れ先及び工場見学先の確保並びに就職先の開拓

- ・工場見学（1～4年生）の実施
- ・卒業生等が参加する合宿進路研修（4年生対象）の実施及び合同企業説明会の開催
- ・有識者によるキャリア研修会（教職員対象）の実施
- ・本取組をホームページやパンフレットで紹介し、教育成果発表会（公開）にて発表

〈2011(平成23)年度以降〉

上記取組を継続する。中学校卒業後の早期より技術者教育を行う本校にとって、キャリアデザイン教育はなくてはならないものと教職員が共通に認識していること、また、今回の取組によりキャリアデザイン教育実施における仕組みが構築され、ノウハウも蓄積されることから、財政支援期間終了後も継続して実施できると確信している。

表1 2009(平成21)年度キャリアデザイン教育スケジュール表

- | |
|---|
| <p>■ 1年：キャリアデザインを行い、目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「キャリアデザインの奨め」(講話) 2. 今年度の目標を設定する。 3. 自己分析を行う。 4. 将来目標を設定する。 5. 工場見学 6. 他者との意見交換を通じ、自身の考えを深める。 7. 目標達成への道筋を考える。 8. 企業講話 9. 今年度の目標に対する自己点検・自己評価を行う。 <p>■ 2年：「自立・自律」とは何かを理解し、行動に表す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “今年度の目標”を設定する。 2. 「自立・自律について考える」(講話) 3. 「コミュニケーション能力について考える」(講話) 4. 工場見学 5. 「技術者になるということの意味」(講話) 6. 心理テスト(性格検査)の実施 7. 企業講話 8. 目標に対する自己点検・自己評価を行う。 <p>■ 3年：社会的責任と役割を自覚する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “今年度の目標”を設定する。 2. 「技術者倫理について考える」(講話) 3. 「仕事と人生、フリーターやニート」(講話) 4. 工場見学 5. 企業講話 6. 目標に対する自己点検・自己評価を行う。 <p>■ 4年：自分を活かして生きていく道を選ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “今年度の目標”を設定する。 2. 「インターンシップ事前準備」(講話) 3. マナー講習会 4. インターンシップ先企業調査 5. インターンシップ発表会 6. 工場見学 7. 進路希望調査、研究室調査 8. 合宿進路研修 9. 企業講話 10. 第1回SPI試験 11. 企業講話 12. 第2回SPI試験 13. 目標に対する自己点検・自己評価を行う。 <p>■ 5年：5年間を総括し、将来を展望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “今年度の目標”を設定する。 2. 「社会で壁にぶつかったときの対応と生涯学習について」 3. 「人生の節目でキャリアデザインを行う」(講話) 4. 目標に対する自己点検・自己評価を行う。 |
|---|